

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	めぐみ保育園
日時	令和6年11月19日
テーマ	無制限遊び
クラス	2. 3歳児

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞ 無制限遊び ＜設定理由＞

夏場、室内保育でいろいろな道具を使って寒天を固め(使い捨て手袋、製氷機など)様々な形、冷たさ、感触などを楽しみ、形の変化や、混色の楽しさを感じる姿が見られていた為、その延長線上で、体を使った無制限遊びを実施してみると、子どもたちの更なる、エネルギーを引き出せるのではないかと職員から、声が上がった。講師を呼んで行う事で、導入の仕方や、材料の準備なども幅が広がり、職員も一緒に楽しむことができた。

準備する材料なども子供の発達に合わせ、内容を変えることで、広がっていくと思う。

＜テーマに関する環境設定＞

身体を使って、遊ぶことが大好きな子どもたちに、衣類の汚れを気にせず、場所(紙の上)を移動しながら、思い切り遊びを楽しむ気持ちを引き出す。

ホールを利用して、危険なものを取り除き、開放的な気持ちで遊べるようにする。

2. 活動スケジュール

講師と職員で準備を開始する。床にシートやロール紙を準備する。

子どもたちには、保育室で感触遊びをすることを説明し、わくわく感を引き立てる。

ホールで自己紹介をして、材料の説明を受ける。

冷たい米粉粘土、温かい米粉粘土、絵の具、寒天などを触ったり混ぜたりして、感触を楽しむ。

3. 準備した素材や道具、環境のデザイン

長机を置き、材料を準備する(最初子どもが感触遊びの材料に触れない為)

子どもたち用の簡易的な名札(養生テープ)。汚れをふき取るためタオル、ビニール袋、使い捨て雑巾、足ふきマット、タライ。

周囲にはものをおかず、広いスペースにシート、ロール紙を敷きつめる。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

最初は、指でちょっと触れたり、冷たさを感じたりしていたが、徐々に大胆になり、手形を押したり、紙の上を歩いたり、座り込んで、足の裏にローラーで色を付けたり、紙コップや、小バケツなどを使ってままごと遊びに発展し、お店屋さんごっこの会話を楽しむ姿が見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
はしゃぐ友達に便乗し、真似をしたり、笑いあったり、職員に絵の具を付けて楽しんだり、大胆さが増した。最初は、抵抗があった子どもも、職員とやり取りするうちに、楽しむことができるようになった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

子どもたちの表情が生き生きとし、集中する時間が長かった。
2歳児は、自分の世界に浸ったり、友達を真似て動きが大胆になり、絵の具を混ぜて変化を楽しんだり、紙の上を楽し気に動き回る姿も見られた。3歳児は、友達と会話を楽しみながら、パフェを作ったり、職員の足にもローラーで色を付けるなど、周囲と一緒に楽しむ姿が見られた。
講師の提供を参考に今後、職員間でも、回数を重ね楽しむことができるのではないかと思います。
さまざまな素材の良さを引き出し、子どもたちの経験に繋げたい。